

# 学校だより

# しらかば



第12号

令和8年 2月27日

西興部中学校

## 「伝える力」 ～言語化能力は人の心をうごかす力となる～

校長 堀内 篤 宏

### ○Médecins Sans Frontières <国境なき医師団>

昨年秋ごろに、国境なき医師団日本の会長、中嶋優子先生のご講演を聞く機会がありました。中嶋優子先生は東京のご出身で、札幌医科大学にて医学を学び、2001年に卒業され、麻酔科医として全国で活躍、USMLE(米国医師国家試験)に合格し2014年には米国Yale大学にて米国救急専門医の資格を取得。この少し前から、国境なき医師団に所属されナイジェリア、パキスタン、シリア、南スーダン、イエメン、イラク、パレスチナ自治区ガザなどに派遣されています。

<以下は講師紹介と講演の中からの話です>

中嶋優子先生は「国境なき自由人ナカジー」と周りの友人たちから揶揄(やゆ)されるくらい信念と行動力がある方だそうです。国内での研修と留学の準備(アイスホッケーが本業の時期もあったと笑われていましたが)を終えると、一人で日本を飛び出し、米国の救急現場、また様々な世界の紛争地で医療活動を行ってきたそうです。2017年には日本人初の災害医療専門医(EMS)の資格を取得され、現在は米アトランタ・エモリー大学救急部の准教授をされているそうです。活動的で笑顔が素敵な話し方をされるお医者さんでした。

本題は「国境なき医師団」の活動を世界の人々に知って欲しいということでした。

国境なき医師団は1971年にフランスで結成され、日本事務局は1992年に認定NPO法人として発足しています。略称が「MSF」となっていますが、フランス語が元です。英語では「Doctors Without Borders」となるそうです。Bordersが国境と訳されていますが、「政治的・地理的な境界」という意味合いが強く感じられるそうです。国境なき医師団の活動理念は「紛争地や自然災害の被災地、貧困地域などで危機に瀕する人びとに、独立・中立・公平な立場で緊急医療援助を届けること」だそうです。主な活動は「医療活動」と「証言活動」の2つだそうです。「医療活動」は医療援助なのですぐに理解できます。「証言活動」はなぜ行っているのか? 「沈黙は死を招く」という信念のもと「人びとが受けている人権侵害や暴力行為を国際社会に訴え、医療だけでは変えられない問題の解決につなげたい」という思いがあるからだそうです。中嶋優子先生は「国際社会で声をあげることや『戦争にもルールがあり、病院などは絶対に攻撃してはいけない』と言い続けることはすごく大事だと思います。」との考えを話されていました。実は…、この医療活動に参加した医療従事者が、2回目に参加することはあまりないそうです。それほど過酷な場所で、自分を守ってくれるのは、国境なき医師団の旗とロゴマークがついたユニフォームだけだそうです。

国境なき医師団はジャーナリストと医療従事者が集まり結成された組織です。日本の2024年度活動資金は約140億円、その約93%が一般個人寄付、6%が一般法人寄付で賄われているそうです。つまり、証言活動に問題意識をもち、一般個人:41万3413人と一般法人支援社:7995社が賛同し行動したということです。

国境なき医師団の証言活動は映像と言語による証言により行われています。『危機に瀕する人びと』がどのような状況なのか、独立・中立・公平な立場で頭の中にある思考、感情、イメージを整理し、世界へ伝わる言葉(論理的・具体的に)に変換して表現することはジャーナリストとしては当然の能力かもしれません。「語彙力(ごいりょく)」「観察力」「要約力」「論理的思考力」で構成される総合的なスキルを身につけることが人の心をうごかす大きな力となるということです。この力が「言語化能力」といわれています。

皆さんも伝える力「言語化能力」で人の心をうごかすことができれば素晴らしいことですね。



国境なき医師団(MSF)日本  
会長 中嶋 優子 医師  
(写真はHPより転載)



## 3月行事予定

- 2日(月) 全校集会
- 4日(水) 公立高校入試(学力検査)
- 5日(木) 公立高校入試(面接)
- 6日(金) 3年生を送る会
- 11日(水) 職員会議
- 13日(金) 卒業式
- 17日(火) 公立高校入試合格発表
- 19日(木) 委員会活動日
- 20日(金) 春分の日
- 24日(火) 修了式・離任式・職員会議
- 25日(水) 学年末休業~31日

因みに、私は講演を聞いた後に勢いで5千円を寄付しました。抗生物質約990錠を届けることができる金額だそうです。

語彙力⇒単に知っている単語の数だけでなく、意味を正確に理解し、状況や文脈に合わせて適切に使いこなす能力のこと。

言葉の「量（知識）」と「質（活用力）」の双方で構成され、高い語彙力は意思疎通をスムーズにし、理解力や表現力を向上させる。

## 後期学校アンケートより

11月に行いました学校アンケートの結果をお知らせするとともに、結果を踏まえ、次年度へ役立てていきます。アンケートへのご協力ありがとうございました。

	評価項目	保護者	生徒	次年度へ向けて
年度の重点	生徒は「自ら課題に取り組み、学び続ける」ことができるようになってきましたか。	3.1	2.8	次年度に向けて、小中連携を深め、9年間のゴールを見据えた教育活動を進めていきます。 教職員の研修、個別最適な授業、思考力・判断力・表現力を育む授業改善を基盤に、評価項目で数値を伸ばすことができた「自ら学習課題に取り組むことができる生徒」の育成を、地域・保護者の方々とともに相互連携を図りながら、創り上げていきたいと考えております。 「笑顔を大切にできる生徒」育成に向けて、人権教育の充実、多様性への理解と推進、当事者性を育みながらウェルビーイングな社会をつくる未来の人材の資質能力の育成を進めていきます。
	生徒は「笑顔を大切にできる生徒」になってきましたか。	3.2	3.0	
学習指導	生徒は、家庭学習ノート、ワーク、キュビナ等に自ら取り組むなど、主体的な家庭学習の習慣が身についていますか。	3.0	2.5	家庭学習の取組の一環として冬季休業中に探求学習レポート作成を実施した。生徒の自己評価から、成果として多くの生徒がこれまでの学習を振り返りながら、自分なりに考えを深めようとしていた。しかし、探求の後半段階において、自分の考えを表現する力には個人差が見られた。主体的に家庭学習にとりくむきっかけとして次年度以降、取組方を改善しながら生徒の資質・能力を育成していきたい。取組の中で聞く・調べる等の手立ての必要性を感じさせ、生徒自身が必要な方法や手段を選択できるようにしていきたい。 また、生徒は落ち着いた態度で授業に望んでいるが、提出物等に課題が見られる場面もある。教科ごとの指導に偏らないよう学年・学校全体で指導していく。 ICTの利活用については、キュビナをはじめとしてロイロノートなどのアプリを利用して、必要な時に必要な学習を行っている。
	勉強でわからないことがあったとき、聞く・調べるなど、解決する手立てを生徒に理解させていますか。	2.9	3.2	
	生徒は、学習規律を守り、授業に前向きに取り組んでいますか。	3.3	3.2	
	多様な学びの保障としての端末（ICT機器）の利活用に取り組んでいますか。	3.0	3.3	
生活	生徒がスマホやゲームの使用時間、テレビの視聴時間を考えて生活を送れるよう、機を見て指導していますか。	2.6	2.6	スマホ・ゲームの使用時間の指導として、インターネットの利用について考える授業や学年ごとの目標設定、利用時間を記入し確認する活動を行った。インターネットの利用については、生徒同士で考えることで自身の課題や改善策を検討し、意識して生活してもらった。学年ごとの目標設定は、クラス全員で考えることで毎月ステップアップした目標が掲げられて一定の成果があったと感じる。次年度も継続して指導することで、スマホ等の利用方法について考える機会を設けたい。 運動に親しむ取組目として、卓球台の設置、ちよいスポデー、家庭で運動 仲良くりフレッシュ！を通して運動を行う機会を増やした。卓球台を常設設置したことで体育館で体を動かす生徒が増えた。ちよいスポデーでは、全校生徒で体を動かすことで運動の楽しさを感じ心身のリフレッシュに繋がった。また、家族で運動する時間を設けました。次年度も可能な範囲で同様の活動を行っていくので、ご協力お願いします。
	生徒は、運動に親しみ、健康や安全に気をつけて生活していますか。	2.7	3.1	
	いじめを許さない、見逃さない信念を持ち、保護者と連携しながら未然防止、早期発見・解消に努めていますか。	3.5	3.8	
	生徒同士、教職員と生徒の温かい人間関係づくりに努め、相談しやすい関係をつくっている。	3.3	3.6	
部活	生徒は、学校行事、部活動や生徒会・委員会活動に前向きに取り組む、満足できる活動になっていますか。	3.5	3.3	生徒が自分たちの手で作りあげる行事・学校をめざして諸活動を支援した。今後も生徒の願いを大切に、少ない人数と限られた時間の中でできることを工夫しながら、主体性と自治の力を伸ばしていきたい。
進路	生徒の進路希望の実現のために主体的に進路選択ができるよう適切な指導、支援を行っていますか。（後期のみ）	3.2	3.5	3年生教室前の廊下に学校案内等のポスターを掲示した。また、進路通信を発行し、体験入学等の案内を周知した。進路の決定に向けては、生徒と学校の双方向でのアプローチが必要と考える。特に生徒自身が積極的に情報を獲得していく態度の育成と先を見通した進路指導を行ってきたい。また、生徒の志望する進路の多様化にあたり、提供する情報を精査し、迅速かつ積極的な情報提供に努めたい。
図書	朝読書や図書コーナーなどを活用し、生徒の読書意欲を高め、表現を豊かにするために様々な文章に触れるよう努めましたか。	2.4	3.2	予算の範囲内で生徒の希望図書を購入し、多くの生徒が興味をもって本を手にとれるよう工夫した。その結果、読書意欲を高めることができたと思う。今後は、より多くの意見を取り入れ、さらに利用しやすい図書環境づくりを進めたい。